



渡邊 昶 議員

経費がかかり再利用率の低い  
ごみのスラグ化をなぜするのか

問

八穂クリーンセンター

【注】の運営について尋ねる。

【注】海部地域8市町村で構成する海部地区環境事務組合が運営。鍋田町地内にある。

(1) 溶融スラグ【注】(11以下スラグ)化するのに約4億5、400万円を必要とした。(18年度は4、821tのうち11tで)再利用の比率が少ないが、実際の用途を聞く。

【注】可燃ごみの焼却灰を溶融炉を使い高温で溶かし、固化したガラス状の物質。道路資材等に再利用できる。

(2) 毎月行うスラグ溶出試験はクリアされているのか。  
(3) なぜスラグ化をしなければならぬのか。  
(4) 国の指導では、スラグを自らが発注する公共事業等に利用しないさい、そのとき発注者はその内容を施行条件、設計書に組み込まない

と言っている。

構成市町村が努力しなければ、いつまでもお金だけ使って埋める状態になる。スラグが安全であるなら、県のリサイクル認定を取ることが必要ではないか。

(5) 7月にスラグの再利用が進まずと新聞報道され、その中の同センターのコメントで、施設面に問題があるような発言がされている。整備すれば本当に再利用ができるのか。

(6) スラグ化には経費もかかるが市長の考えを尋ねる。

ダイオキシンの分解  
処分場の延命である

答 環境課長

(1) 道路会社にアスファルト用の骨材として2t、建

材業者に道路の路盤材として9tが利用されたと聞いている。  
(2) すべて基準値内と聞いている。

(3) 1、200℃以上の高温処理によるダイオキシン類の分解、そして減容されることによる最終処分場の延命が最大の目的である。

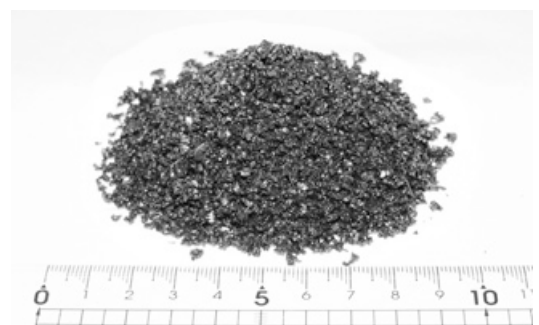
(4) 20年度に同センターとスラグの売買契約をする業者が4社有り「あいくる材」として認定を取得している」と聞いているが、実際の取引はまだ無い。

(5) リサイクルするには、保管するストックヤードと粒をそろえる磨砕機が無い問題はあまる。  
しかし、整備をしても(他自治体)溶融施設の増加でスラグ供給は増え、需要自体が横ばいで、再利用される保障は無い。

答 市長

(6) 組合へ市は5億を超え金額を負担している。ごみを削減することが負担金の削減につながるので、広

溶融スラグ



報を通じ、市民に減量を頼んでいる。

スラグについては、3、600万円の処理費【注】を補正予算で組んだ。地元と話し合いをしながら、一般廃棄物最終処分場(11鍋田町地内)で処理することも方法だと思っている。  
一番の問題は、いろんな角度から製品化を努力し、有効利用を促進しなければならぬと思う。

【注】スラグは、ごみ搬入量に同じ構成市町村に返還され、各自で処理する。市は負担金を払い、組合に処理を依頼している。